

公的年金を運用する「年金積立金整理運用独立行政法人」(GPIF)は11月25日、2016年7~9月期の運用収益が2兆3746億円の黒字だったと発表した。

黒字は2015年10~12月期以来、三四半期ぶりである。今回の収益を含め、GPIFの前身である旧年金資金運用基金が市場運用を始めた2001年度以降の累積収益は42兆5644億円の黒字となった。

7~9月期の黒字内訳は、国内株式が2兆234億円で、外国株式が1兆455億円だった。国内債券は6671億円の赤字、外国債券は398億円の赤字だった。GPIFによると、7~9月期は国内で景気対策への期待が高まり、評価上昇につながったことが運用収益の黒字化に影響した。

GPIFはまた、2015年度末時点で保有していた株式や債券の全銘柄や時価総額などの情報を開示した。国内株式を2120銘柄(時価総額30兆4255億円)、外国株式を2591銘柄(同30兆7345億円)を保有している。